

高度副プログラム

世界の言語文化とグローバリゼーション

*Globalization and World Languages and Cultures*

人文学研究科（連携部局：人間科学研究科）

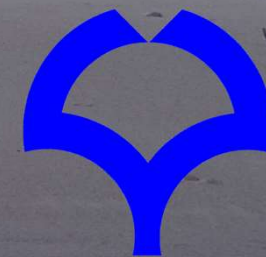


Photo: Sei Kosugi

高度副プログラム

「世界の言語文化とグローバリゼーション」

*Globalization and World Languages and Cultures*



羽ばたけ、世界へ





Mardai, Mongolia (撮影: 今岡)



Kiritimati (撮影: 小杉)



Belgium (撮影: 霜鳥)



Istanbul (撮影: 霜鳥)



Sydney (撮影: 霜鳥)



Auschwitz (撮影: 霜鳥)



## SDGs教育プログラムとしての趣旨

本プログラムは、グローバル化の影響を受ける市民社会のあり方と現代社会が直面する社会問題（戦争、紛争、テロリズム、人種、ジェンダー、障がい、社会格差）や環境問題（気候変動、災害、感染症、廃棄物、人と自然の共存）などを含む様々なテーマについて、文学・表象芸術・舞台芸術・映像・メディアの言語文化的分析、社会事象の歴史政治的な分析やフィールドワークなどを通して学び、グローバル化の世界システムについて、学際的な視座から、地域を超えて共に考える機会を提供します。また、様々な地域や時代の言語文化と社会事情について、文学や表象の分析を通して内から深く学ぶことにより、私たち個人の生の実現を妨げる様々な構造的暴力を批判的に検証すると同時に、異なる価値観や思考と共に現代を生きるためのサステナブルでオルタナティブな社会の可能性を模索し、現代社会の抱える様々な課題の解決を探求するための広い視野と知の構築、国際性の涵養を目的とします。

<https://sdgs.osaka-u.ac.jp/education/1227.html>



# SDGs貢献可能性

文学や芸術を通して、社会的弱者や障がい者、さらには人間以外の種といった「他者」の視点で世界を見つめ直すことを学び、また、様々な地域や時代の言語文化と社会事情をフィールドワークも含めて学ぶことで、私たちの生きる世界を複眼的に理解し、真の多様性と他者性を孕んだ惑星に共生する方途を探究するための広い視座と知を構築することができます。将来、社会福祉や教育研究、NPOやNGO、国際機関や企業で活躍する学生が、文理を問わず、本プログラムで得た成果を自らの専門分野で実践し、様々な現代社会の課題に取り組み、文化の〈共創〉に貢献することを促します。



特定の地域、あるいは複数の地域の言語文化に精通する教員によって構成される本プログラムは、R4年度から個別科目とリレー講義を含めた約50名の教員からなる部局横断的、領域横断的なプログラムとして生まれ変わりました。本プログラムの複数の構成員は、これまでも、学部・大学院の授業への海外アーティストの招へい、「学問への扉」での学生との共同作業、高校生や一般市民を対象とした公開講座や放送大学などの生涯学習の場の提供、地方自治体や大阪大学21世紀懐徳堂などのアウトリーチ活動の場での講演会やワークショップの開催、大学主催の研究交流会でのNGO・NPOやメディア関係者との交流、といった様々な活動を行ってきました。今後も本プログラムの受講生に授業のテーマと関連する一般公開の行事への参加を奨励することで、専門家のみならず一般市民との交流の中で、共に考える「共想」の機会を「共創」へとつなげることで、本プロジェクトで学んだ本学の学生が社会に出て、自らが発信者として活躍することを促進します。





# 高度副プログラム「世界の言語文化とグローバリゼーション」 概要

人類は太古から大規模な移動を繰り返しながら、言語文化と集団を形成してきました。グローブ（地球）は現在、様々な仮想の境界線によって区切られると同時に、通信網と交通によってつながっていますが、海を渡る人々、陸を移動する遊牧民などに、国境や境界線はありませんでした。今日の世界地図が作られる契機となったのは、コペルニクスの地動説という宇宙についての認識の大転換の後に、西洋の海洋探検家たちの「大航海」によって、アメリカ大陸、アフリカ最南端、アジア、オセアニア地域の存在がヨーロッパで認識されるようになったからです。これらの地域の「発見」が、移民や奴隷貿易も含めた貿易の世界的拡大へとつながり、さらに、18世紀の産業革命以降のグローバルな変化は、世界を一変させました。工業力や軍事力を背景とした近代帝国主義の拡大により、非西欧地域の資源や労働力が搾取された半面、科学技術や近代的社会制度の普及が、世界各地の言語文化や社会構造に大きな変容をもたらしました。

# 概要

15世紀半ばから20世紀前半までの帝国主義の時代に、社会制度、産業、金融、貿易、軍事面で大変化がおこっただけではなく、地理学、人類学、民俗学等の学問研究の発展により、より広範で精緻な「世界観」が作り上げられ、その知識が著作物となって世界中に流通しました。

一方、旧植民地が次々に独立を果たした20世紀後半からは、エドワード・サイードの『オリエンタリズム』（1978年）によって、世界に流通する「オリエント」認識が西欧の視点から作り上げられたものであることが明らかにされ、ポストコロニアル研究が、旧植民地の視点から植民地主義の歴史やその言語文化的な影響を批判的に検証し、旧植民地における新たなネーションと文化の形成に着目する研究を力強く進めていきました。グローバリゼーションによって国家や民族や宗教、さらにカルチャーやジェンダーの概念そのものが変容しました。また、20世紀後半以降には世界人口の急増に伴う森林伐採と資源開発の加速化、軍事と産業による核や原子力、AIなどの科学技術の開発が、生態系と社会構造に大きな変化をもたらしました。



# 概要

21世紀に生きる私たちは、気候変動、災害、感染症の拡大、廃棄物などの環境問題、紛争やテロリズム、社会格差の問題など、様々な課題を抱えています。そして、それぞれの民族や社会や個人は、ネーションの枠を超えて複雑に絡み合うグローバルなネットワークのなかで、自らを「主体者」として様々なメディアで自己発信をしています。

本プログラムは、文学、メディア、芸術による文化表象や社会政治的事象を言語文化的視点から考察し、それらの表象や事象を生む世界の様々な言語文化と社会について深く学ぶことによって、異なる価値や思考に対する共感に基づく多様な社会のあり方を模索し、「他者」と向き合う想像力を養います。グローバリゼーションの世界システムの構造的暴力を批判的に検証すると同時に、自らが発信者となってグローバルなネットワークの構築の可能性を開拓し、文化の交差点に生きる私たちの立ち位置を考えることにより、サステナブルな社会のあり方を思考するための高度な国際性の涵養を目的とします。

# 到達目標

本プログラムの学習を通して、以下の能力を備えた方に修了認定証を授与します。

- ① 理論的な枠組（文学・文化理論、関連分野の理論など）を理解している。
- ② 文化事象や社会事象（帝国主義とグローバリゼーションの関係性、産業・資本・メディア・言語文化のグローバル化、ネーション、ジェンダー、土着文化、サブカルチャー、文化の受容と発信、異文化接触、翻訳を通じた異文化理解、国際関係の協調性と敵対性、国境を越えた人的・文化的な交流、移民・難民・テロリズム、人とモノと自然の共生、環境問題などのテーマを例とする）について、世界の様々な文学や表象の分析、社会政治学的考察、フィールドワークなどを通して、具体的に理解している。
- ③ 上記の理論や知識を応用し、言語文化について論じたり、現代社会が抱える諸問題について考察し、自らの考えを表現できる。



## カリキュラム構成

本プログラムのいずれの科目も、上記の到達目標に掲げた文学・文化理論と関連分野の理論の理解や、文化事象・社会的事象を分析し論じる能力を高める授業を行い、私たちが生きている「世界」に対する理解を深め、そのあるべき姿について考える契機を提供します。本プログラムの構成は段階的な科目配置ではなく、受講生の関心に合わせて、グローバル化の影響のもとにある世界の様々な言語文化や社会のあり方を横断的に学ぶことのできる科目配置になっています。科目を多く履修すればそれだけ広範囲な知見を獲得することができます。

# 履修資格・条件、前提知識の目安

言語文化と社会との関係について関心があり、その関心を深め、私たちを取り巻く状況の本質を追求しようとする意欲を持っていることを条件とします。

## 前提知識の目安

大学生レベルの英文の読解力と日本語のコミュニケーション能力が必要。（科目によっては、英語で行われる授業や、英語と日本語以外の言語能力が求められることがあります。個々のシラバスの履修条件を参照してください。）

## 修了要件

開講科目のなかから、各自の関心と必要に合わせて、自由に科目を選択できます。2名以上の教員の複数の科目を組み合わせて合計8単位以上を履修すると修了証が発行されます。

# 科目構成

共生社会論特講I（吹田）	モハーチ・ゲルゲイ、伊藤莉央
多文化共生学特講I（吹田）	藤目ゆき
多文化共生学特定演習I（吹田）	藤目ゆき
超領域文化論A・B（豊中）	平山晃司
超領域文化論A・B（豊中）	ガデミ アミン
ジェンダー論A・B（豊中）	北井聡子
ジェンダー論A・B（豊中）	鈴木啓峻
グローバリゼーション論A・B（豊中）	小杉世
グローバリゼーション論A・B（豊中）	西村謙一
言語文化共生論A・B（豊中）	里内克巳
言語文化共生論A・B（豊中）	霜鳥慶邦
言語文化形成論A・B（豊中）	中村綾乃



# 科目構成

表象文化論 A・B (豊中)	木原善彦
表象文化論 A・B (豊中)	山本佳樹
表象文化論 A・B (豊中)	林千宏
言語文化比較交流論 A・B (豊中)	津田保夫
言語文化比較交流論 A・B (豊中)	田中智行
翻訳研究 A・B (豊中)	村上スミス アンドリュー
翻訳研究 A・B (豊中)	渡辺貴規子
翻訳研究 A・B (豊中)	佐高春音
広域言語文化論Ⅲ A・B (箕面)	中村未樹
広域言語文化論Ⅳ A・B (箕面)	藤原克美
イギリス言語文化表象論Ⅰ A・B (箕面)	畑田美緒
アメリカ言語文化表象論Ⅰ A・B (箕面)	近藤佑樹
アメリカ言語文化表象論Ⅱ A・B (箕面)	岡本太助

## 科目構成

アジア言語文化資源論II A・B (箕面)	林初梅
アジア言語社会構造論I A・B (箕面)	今岡良子
ヨーロッパ言語社会構造論I A・B (箕面)	藤原克美
アジア言語社会動態論II A・B (箕面)	深尾葉子
イギリス言語社会動態論I A (箕面)	藤山一樹
現代英米政治外交史特殊研究 (箕面)	藤山一樹
世界文学・文化論 (リレー講義) (箕面)	北岡志織+13名
世界の言語事情 (リレー講義) (箕面)	岡本真理+13名
西洋近現代史講義II-1 (豊中)	藤川隆男
地域文化空間論講義 (豊中)	井本恭子
イギリス文化史講義 (豊中)	山田雄三
日本の地域と民俗講義 (豊中)	越智郁乃、北村毅

# 個別科目担当教員 プロフィール

モハーチ・ゲルゲイ（医療人類学、科学技術社会論、人新世、共生）

藤目ゆき（近現代日本史、アジア現代女性史、多文化共生とジェンダー）

平山晃司（西洋古典学、古代ギリシアの法と宗教）

ガデミ アミン（グローバル思想史・文化史、グローバル日本史）

北井聡子（ジェンダー/セクシュアリティ表象、ユートピアと性、ロシアのフェミニズム運動）

鈴木啓峻（近現代ドイツの文学と思想、ジェンダー論、アイデンティティ論）

小杉世（英語圏文学、ポストコロニアル研究、オセアニア地域研究、環境人文学）

西村謙一（東南アジアの市民社会、フィリピン現代政治）

里内克巳（アメリカ19-20世紀転換期文学、ライフナラティブ、人種・エスニシティ）

霜鳥慶邦（英語圏文学、第一次・第二次世界大戦の記憶の総合的研究、文学・文化批評理論）

中村綾乃（在外ドイツ人と第二次世界大戦、ドイツ・東アジア関係史、ドイツ植民地）

木原善彦（アメリカ現代小説、現代アメリカ大衆文化、翻訳研究）

山本佳樹（ドイツ映画史、文学と映画、映画理論、ドイツ文学）

林千宏（16世紀フランス文学、印刷書物文化研究）

津田保夫（ドイツ文学、ドイツ思想、文学理論、近代日本文学・村上春樹）

田中智行（中国近世白話小説、古典小説批評）



## 個別科目担当教員 プロフィール

村上スミス アンドリュー（日本文学における地域言語の使用と役割、翻訳研究）

渡辺貴規子（19世紀フランス児童文学、近代日本児童文学におけるフランス文学受容、翻訳研究）

佐高春音（中国白話小説、水滸伝、物語論）

中村未樹（イギリス演劇、イギリス文化）

藤原克美（ロシア企業及び産業・ソビエト消費財産業の研究、ジェンダー）

畑田美緒（イギリス文学・19世紀のイギリス小説・ヴィクトリア朝、子供、老人、女性）

近藤佑樹（アメリカ文化、アメリカ文学、フィリップ・ロス）

岡本太助（アメリカ文化・演劇・パフォーマンス）

林初梅（近現代台湾におけるアイデンティティ・言語・社会文化、台湾のなかの日本記憶、台湾先住民言語と神話）

今岡良子（モンゴル遊牧民文化、生物多様性と草原、モンゴル現代女性史）

深尾葉子（社会生態史学、地域環境論、中国社会研究、東アジア里山経済の越境マネジメント）

藤山一樹（戦間期イギリスの対ヨーロッパ/対アメリカ政策と国際秩序への影響）

藤川隆男（オーストラリア史、移民研究）

井本恭子（南ヨーロッパ・イタリア文化研究）

山田雄三（中心の関心はレイモンド・ウィリアムズが提唱した「感情構造」）

越智郁乃（文化人類学、観光・移住などに伴う人・モノの移動と文化変容）

北村毅（沖縄、戦争、ジェンダー、医療人類学、オーラルヒストリー）

# リレー講義担当教員プロフィール

## 世界文学・文化論 14名 ※授業担当順

代表者：北岡志織（現代ドイツ文学・演劇・移民・難民・他者表象）

永原順子（日本文学）、井上さゆり（ビルマ文学）、中村未樹（英文学）、北岡志織（ドイツ文学）、長崎広子（ヒンディー文学）、松本健二（ラテンアメリカ文学）、岡本淳子（スペイン文学）、菊池正和（イタリア文学）、宮下遼（トルコ文学）、福田義昭（アラブ文学）、中村菜穂（ペルシア文学）、劉文兵（中国文学）、山根聡（ウルドゥー文学）、近藤佑樹（アメリカ文学）

## 世界の言語事情 14名 ※授業担当順

代表者：岡本真理（ハンガリー語学・ハンガリー文学・近代民族運動）

横井幸子（ソ連時代とロシア、多言語主義）、岡本真理（近代中東欧地域の民族と言語運動）、長谷川信弥（スペインの言語事情）、鳥居玲奈（ブラジルポルトガル語における言語接触）、中田聡美（中国の言語事情）、中嶋善輝（モンゴルの言語事情）、西岡美樹（インドおよびその近隣地域の言語事情）、ファン・ティ・ミー・ロアン（ベトナムの言語事情）、ラッタナセリーウォン センティアン（タイの言語事情）、矢元貴美（フィリピンの言語事情）、原真由子（インドネシアの言語事情）、岩井亮雄（朝鮮の言語事情）、仲尾周一郎（ナイル流域諸国におけるアラビア語）、竹村景子（タンザニアの言語事情）

# 受講生の声

**2020年度に「大学院等高度副プログラム」を履修したWAN NUR AMIRAH BINTI WAN ROSLI（ワン・ヌル・アミラ・ビンティ・ワン・ロスリ）さん（大学院言語文化研究科博士前期課程1年）**

私は日本文学を探究しながら高度副プログラムで専攻以外のジェンダー論、グローバリゼーションも学びました。他の国の人たちの考え方を聞いて、今まで知る機会もなかったことを学び、自由に議論もでき、幅広い視野で物事を考えられるようになりました。自分の研究室以外にも教員との繋がりが増えて、気軽に質問できるようになったことも大きいです。また、たくさんの授業を受講したおかげで上手にタイムマネジメントできるようになったことも副産物ですね。

（『大阪大学 News Letter』 No.86, p. 7）





# 受講生の声

本プログラムの履修により、異文化間の理解が深まり、コミュニケーション能力が向上しました。これにより、グローバル化の影響を理解することで、世界の経済、政治、社会などの様々な側面をより広い視野で捉えることができ、国際的な問題に対する洞察力を高めることができます。特に現在の複雑な国際環境においては、そのような能力を持つのは大切なことだと思います。そして、自分の研究の国際化に関する部分において、非常に多大な助けとなります。

(2023年度プログラム修了者 人文学研究科言語文化学専攻博士前期課程 SUN MINGZE)

# 受講生へのメッセージ

本プログラムでは、専攻を超えて広くニーズに合う授業を受講できます。修了要件は8単位ですので、専門の授業との両立も十分可能です。博士後期課程の院生さんも受講が可能です。

将来、国際的視野を必要とする職に就きたいと考えている人、研究者をめざす人、理系・文系問わず、近現代の世界と日本における言語社会文化の状況に関心をお持ちの意欲ある皆さんの受講をお待ちしております。

複数の高度副プログラムに登録して受講している学生さんも多くいますので、組み合わせで受講すること、インターンシップやその他の部局横断プログラムと合わせて、参加をおすすめします。

# 履修について

高度副プログラムの履修登録は、KOANから行ってください。プログラムへの申請登録と構成科目の履修登録の両方が必要です。本プログラムの申請登録は、春夏学期と秋冬学期のKOAN申請登録時期に可能です。※R6申請登録期間：**春夏学期 4/8(月)15時～4/17(水)13時、秋冬学期 9/24(火)13時～10/8(火)13時**

高度副プログラム「世界の言語文化とグローバル化」のKOANサイトは下記のURLから見られます。科目名のリンクをクリックすると、シラバスを閲覧できます。

[https://koan.osaka-u.ac.jp/campusweb/campussquare.do?\\_flowId=FPW4207100-flow&nendo=2024&shikakukbncd=13&shikakucd=90&langkbn=j](https://koan.osaka-u.ac.jp/campusweb/campussquare.do?_flowId=FPW4207100-flow&nendo=2024&shikakukbncd=13&shikakucd=90&langkbn=j)

プログラム概要と各科目の授業概要抜粋資料は下記のURLからダウンロードできます。

<https://drive.google.com/drive/folders/1kGUw6l1sVy3yd8QUZEp9QeZXowxgRqJG?usp=sharing>

各授業の初回に高度副プログラムの履修についても担当教員からガイダンスがあります。



## ■KOANの操作方法について

KOANの「プログラム申請」システムで申請受付を行うプログラムの場合、操作方法是以下のとおりです。なお、「プログラム申請」システム以外の方法で申請受付を行うプログラムもありますので、「プログラム申請」のプログラム詳細画面や各プログラムが発行する案内冊子、ホームページ等で確認してください。

### 1.<ログイン>

KOANにログインし、



から「プログラム申請」に入る。



<https://koan.osaka-u.ac.jp/>

### 2.<興味のあるプログラムを選択>

AまたはBをクリックして、検索を行い、興味のあるプログラムを選択する。



一覧からプログラムを選択します。

内容や構成科目からプログラムを検索します。

### 3.<プログラムの内容を確認し、受講申請>

プログラムの詳細画面の最下部にある「プログラム申請」ボタンをクリックしてください。

その後、4.<プログラム科目の履修登録>を行ってください。

この画面の最下部に「プログラム申請」ボタンがあります。

この画面の最下部に「プログラム申請」ボタンがあります。

プログラム申請期間中はいつでも申請の取消が可能です。

### 4.<プログラム科目の履修登録>

あなたの時間割とプログラムの時間割を見比べながら履修登録することが可能です。

この画面で、あなたの時間割とプログラムの時間割を見比べながら履修登録することが可能です。

クリックして履修登録すると「あなたの時間割」に反映されます。

あなたの時間割

プログラムの時間割

構成科目一覧

# 世界の言語文化とグローバル化

人文学研究科（連携部局：人間科学研究科）

問い合わせ：人文学研究科豊中事務部学務係（豊中キャンパス）

TEL：06-6850-5856

E-Mail：[jinbun-gakumu@office.osaka-u.ac.jp](mailto:jinbun-gakumu@office.osaka-u.ac.jp)

## 令和6年度大学院高度副プログラム

### 「世界の言語文化とグローバリゼーション」の概要について

#### 【趣旨と概要】

人類は太古から大規模な移動を繰り返しながら、言語文化と集団を形成してきました。グローブ（地球）は現在、様々な仮想の境界線によって区切られると同時に、通信網と交通によってつながっていますが、海を渡る人々、陸を移動する遊牧民などに、国境や境界線はありませんでした。今日の世界地図が作られる契機となったのは、コペルニクスの地動説という宇宙についての認識の大転換の後に、西洋の海洋探検家たちの「大航海」によって、アメリカ大陸、アフリカ最南端、アジア、オセアニア地域の存在がヨーロッパで認識されるようになったからです。これらの地域の「発見」が、移民や奴隷貿易も含めた貿易の世界的拡大へとつながり、さらに、18世紀の産業革命以降のグローバルな変化は、世界を一変させました。工業力や軍事力を背景とした近代帝国主義の拡大により、非西欧地域の資源や労働力が搾取された半面、科学技術や近代的社会制度の普及が、世界各地の言語文化や社会構造に大きな変容をもたらしました。

15世紀半ばから20世紀前半までの帝国主義の時代に、社会制度、産業、金融、貿易、軍事面で大変化がおこっただけではなく、地理学、人類学、民俗学等の学問研究の発展により、より広範で精緻な「世界観」が作り上げられ、その知識が著作物となって世界中に流通しました。

一方、旧植民地が次々に独立を果たした20世紀後半からは、エドワード・サイードの『オリエンタリズム』（1978年）によって、世界に流通する「オリент」認識が西欧の視点から作り上げられたものであることが明らかにされ、ポストコロニアル研究が、旧植民地の視点から植民地主義の歴史やその言語文化的な影響を批判的に検証し、旧植民地における新たなネーションと文化の形成に着目する研究を力強く進めていきました。グローバリゼーションによって国家や民族や宗教、さらにカルチャーやジェンダーの概念そのものが変容しました。また、20世紀後半以降には世界人口の急増に伴う森林伐採と資源開発の加速化、軍事と産業による核や原子力、AIなどの科学技術の開発が、生態系と社会構造に大きな変化をもたらしました。

21世紀に生きる私たちは、気候変動、災害、感染症の拡大、廃棄物などの環境問題、紛争やテロリズム、社会格差の問題など、様々な課題を抱えています。そして、それぞれの民族や社会や個人は、ネーションの枠を超えて複雑に絡み合うグローバルなネットワークのなかで、自らを「主体者」として様々なメディアで自己発信をしています。

本プログラムは、文学、メディア、芸術による文化表象や社会政治的事象を言語文化的視点から考察し、それらの表象や事象を生む世界の様々な言語文化と社会について深く学ぶことによって、異なる価値や思考に対する共感に基づく多様な社会のあり方を模索し、「他者」と向き合う想像力を養います。グローバリゼーションの世界システムの構造的暴力を批判的に検証すると同時に、自らが発信者となってグローバルなネットワークの構築の可能性を開拓し、文化の交差点に生きる私たちの立ち位置を考えることにより、サステナブルな社会のあり方を思考するための高度な国際性の涵養を目的とします。



### 【到達目標】

本プログラムの学習を通して、以下の能力を備えた方に修了認定証を授与します。

- ① 理論的な枠組（文学・文化理論、関連分野の理論など）を理解している。
- ② 文化事象や社会事象（帝国主義とグローバリゼーションの関係性、産業・資本・メディア・言語文化のグローバル化、ネーション、ジェンダー、土着文化、サブカルチャー、文化の受容と発信、異文化接触、翻訳を通じた異文化理解、国際関係の協調性と敵対性、国境を越えた人的・文化的な交流、移民・難民・テロリズム、人とモノと自然の共生、環境問題などのテーマを例とする）について、世界の様々な文学や表象の分析、社会政治学的考察、フィールドワークなどを通して、具体的に理解している。
- ③ 上記の理論や知識を応用し、言語文化について論じたり、現代社会が抱える諸問題について考察し、自らの考えを表現できる。

**【カリキュラムの構成】** 本プログラムのいずれの科目も、上記の到達目標に掲げた文学・文化理論と関連分野の理論の理解や、文化事象・社会的事象を分析し論じる能力を高める授業を行い、私たちが生きている「世界」に対する理解を深め、そのあるべき姿について考える契機を提供します。本プログラムの構成は段階的な科目配置ではなく、受講生の関心に合わせて、グローバリゼーションの影響のもとにある世界の様々な言語文化や社会のあり方を横断的に学ぶことのできる科目配置になっています。科目を多く履修すればそれだけ広範囲な知見を獲得することができます。

**【履修資格・条件】** 言語文化と社会との関係について関心があり、その関心を深め、私たちを取り巻く状況の本質を追求しようとする意欲を持っていることを条件とします。

**【修了要件】** 2名以上の教員の複数の科目を組み合わせ合計8単位以上履修すること。

**アピールポイント：**産業・金融・メディア・言語文化のグローバル化、ジェンダー、国際関係の協調性と敵対性、国境を越えた人的・文化的な交流、難民やテロリズム、環境問題など、私たちを取り巻く状況の本質を追究しようとする者にとって、21世紀の世界が過去の世紀においてどのような段階を経て形つくられてきたものなのかを知ることは重要です。このプログラムは、私たちが生きている世界に対する理解を深め、そのあるべき姿について考える契機を提供します。

**受けてもらいたい人：**近現代の世界と日本における言語文化の状況を見極め、そのあるべき姿を問い直そうとする意欲のある皆さん。将来、国際的視野を必要とする職に就きたいと考えている学生さんたち。

**学び終えて：**言語文化に関する理論的思考、分析力、広く深い理解を身につけることによって、現代社会に対する言語文化的な知見を新たにすることができます。

**キーワード：** 世界の文学、世界の言語文化、グローバリゼーション

**プログラム分野：**文化・地域      **学問系統：**文系融合

※以下は科目概要の抜粋です。履修要件、授業計画、教科書など詳細はKOANシラバスを参照してください。

### <春夏学期科目>

**共生社会論特講Ⅰ モハーチ・ゲルゲイ, 伊藤 莉央** (人間科学研究科・吹田) 時間割コード 211753

【授業サブタイトル】共生社会のあり方を多文化共生の現場から問う

【授業の目的と概要】本授業は、学修証明プログラム「未来共生イノベータープログラム」の必修科目とのジョイント科目として設定するものである。国内外における文化的・社会的多様性のもとでの共生社会のあり方の探求を、主として多文化共生の3つの現場から展開する。

【授業計画】第1回 オリエンテーション 第2～3回 貧困と抵抗1 政策を数字から読む 第4～5回 貧困と抵抗2 第6～7回 多文化共生1 第8～9回 多文化共生2 第10～11回 災害と復興1 第12～13回 災害と復興2

**多文化共生学特講Ⅰ 藤目 ゆき** (人文学研究科・吹田) 時間割コード 211801

【授業サブタイトル】性の歴史学

【授業の目的と概要】『性の歴史学』と現代の女性史研究の意義と動向について学ぶ。

**多文化共生学特定演習Ⅰ 藤目 ゆき** (人文学研究科・吹田) 時間割コード 211804

【授業サブタイトル】占領軍被害の研究

【授業の目的と概要】連合国対日占領軍に起因する民間人の人身被害と国家賠償請求運動について学び、その歴史的意義を理解する。

**西洋近現代史講義Ⅱ-1 藤川 隆男** (人文学研究科・豊中) 時間割コード 458630

【授業サブタイトル】差別と平等の世界史

【授業の目的と概要】授業では、近代から現代にかけて展開するグローバル・ヒストリーを、西洋近現代を一つの核として様々な角度から取りあげる。とりわけ差別と平等の展開を、人種・ジェンダー・階級などのパースペクティブから詳細に分析する。その過程で、世界システム論や従属論、グローバル・メディア研究などの諸理論について理解できるようにする。

**イギリス文化史講義 山田 雄三** (人文学研究科・豊中) 時間割コード 45A115

【授業サブタイトル】文化翻案の諸相——英国と日本の戯曲の場合

【授業の目的と概要】英語圏文学の主要作品のなかでも重要な位置づけをされる作品をとりあげ、英語圏文学世界の魅力を、わかりやすく紹介する。オリジナルのテキスト講読と邦

画の鑑賞をとおして、文学のハイブリッドの性質について、理解を深めてもらう。

#### **超領域文化論A 平山 晃司**（人文学研究科・豊中）時間割コード 452009

【授業サブタイトル】ギリシア人とト占（1）

【授業の目的と概要】「異質の文化を研究する究極の目的は、自分の文化の体系がどのように機能するかについて、知見を広めることにある」（E.T.Hall）。この授業は、古典古代の文化のありようを学ぶことにより、自国の文化を批判的に見つめ直し、より深く理解するためのよすがを手に入れることを目的とする。

#### **超領域文化論A ガデミ アミン**（人文学研究科・豊中）時間割コード 452131

【授業サブタイトル】東アジアの文化史

【授業の目的と概要】東アジアの歴史を検討する英語での文献を精読することにより、英語圏の文化史学における重要な議論を理解し、それについて批判的に考え、その議論における様々な視点を評価する。今学期は主に、中国史および日本史における「身分」と「公共圏」という二つのテーマを取り上げる。

#### **グローバリゼーション論A 小杉 世**（人文学研究科・豊中）時間割コード 452013

【授業サブタイトル】先住民文学と難民文学をつなぐ地平線（水平線）—オーストラリア現代文学を読む

【授業の目的と概要】本演習は植民地主義・帝国主義とグローバリゼーションとの関係について、ポストコロニアル理論や環境人文学、その他の文化理論に基づきながら考察する。太平洋の核軍事化による先住民社会の変容、移民・難民の問題、気候変動やグローバル企業の活動が現地社会にもたらす環境問題、グローバル資本主義と生政治の問題など、現代世界の抱える様々な課題について、文学テキストや表象の分析、フィールド調査のデータなどをもとに考察する。現代社会の課題を考究するにあたって必要となるのは、多様な視点であり、「他者」の目から世界を見る想像力である。受講生は自らの専門分野と方法論に基づいて、授業に自らの視点や関連考察素材を持ち込むことが推奨される。

今年度の春夏学期は、オーストラリアの中国系アボリジナル作家アレクシス・ライト（Alexis Wright）の短篇 *Odyssey of the Horizon*（『地平線の叙事詩』）をとりあげ、アボリジナルの創世神話に基づく世界観を英語で表現した同作家の代表作 *Carpentaria* (2006) や気候変動によって「難民」となるスワンの地球規模の移動を描く *The Swan Book* (2013) などの小説の抜粋も一部紹介しながら、この短編がいかに関先住民文学と難民文学をつなぐものとなっているかを分析する。本作品はオーストラリアのアーティスト Tracy Moffatt が 2017 年 ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展に出展した作品『私の地平線(My Horizon)』にこたえる形で創作された。写真や映像といった視覚芸術と言葉による文学作品のコラボレーションについても論じる。また学期の残りの時間では、ベトナム系オーストラリア人作家ナ

ム・リー (Nam Le) の短編集 *The Boat* (2009)を読む。生後3か月で両親とともにオーストラリアへ難民として移住したナム・リーは英語を第一言語とする移民1.5世であり、リーの本短篇集の作品の舞台は、アメリカ、コロンビア (カルタヘナ)、イラン (テヘラン)、日本 (ヒロシマ)、オーストラリアとグローバルに展開する。そのうちおもにアメリカ、ヒロシマ、ベトナムからオーストラリアへ向かう難民船上を舞台とした3篇を読む。

#### **グローバリゼーション論A 西村 謙一** (人文学研究科・豊中) 時間割コード 452015

【授業サブタイトル】 グローバリゼーションと国民国家

【授業の目的と概要】 本演習はグローバリゼーションのもとで国家や国民の概念及び実態について、市民社会論やアイデンティティ論等を援用しつつ考察する。従来、近代国家は、単一の国民で形成されているとの擬制のもとにあったが、それは必ずしも成立しないと指摘されるようになって久しい。特に、国境を越えた人々の流れが加速化している現在は、国民の実態は複雑さを増している。グローバリゼーション論Aでは理論的枠組を中心に学び、他者に向き合う想像力の育成と高度な国際性の涵養するための基盤の形成を目指す。

#### **言語文化共生論A 里内 克巳** (人文学研究科・豊中) 時間割コード 452017

【授業サブタイトル】 文学から考える人種とジェンダー (1)

【授業の目的と概要】 Nella Larsen の小説 *Passing* (1929)は、Alice Walker や Toni Morrison など、後続するアフリカ系アメリカ文学の書き手たち (特に女性作家) に大きな影響を与えた作品である。本授業では、この小説を丹念に読み、議論することによって、作品が投げかける人種やレイシズム、そしてジェンダーやセクシュアリティといった問題系をめぐる問いかけに対して考えをめぐらせたい。また小説の読解と併行して、文化人類学者 Ruth Benedict が著わした *Race and Racism* (1940)の日本語訳も参照し、人種という捉えがたい概念についての理解を深めたい。

#### **言語文化共生論A 霜鳥 慶邦** (人文学研究科・豊中) 時間割コード 452019

【授業サブタイトル】 現代イギリス小説 Ian McEwan, *Atonement* (2001)を読む

【授業の目的と概要】 現代イギリス文学を代表する作家 Ian McEwan の代表作 *Atonement* (2001)を読みます。

ある少女の恋心、その少女の嘘によって人生の破滅へと追いやられる恋人たち、一人の人間が長年にわたって抱える罪の意識、贖罪の可能性と不可能性、第二次世界大戦という歴史的悲劇、文学を創作するという行為の可能性と限界といった複数のテーマが、美しく洗練された文体と巧みな構成によって綴られます。

まずは、物語世界を楽しみ、じっくりと味わいましょう。そして、作品についての理解を深めるだけでなく、文学テキストを、単語・内容・文体・構造・修辞・背景など、あらゆるレベルにこだわって読むという行為それ自体の訓練も意識して進め、文学テキストを分析



的・批評的に読む技術を身につけることを目指します。

授業の形式は、基本的に、担当者による発表と全体での議論によって進める予定です。気軽に、積極的に、議論に参加してください。

※この小説は、複雑な仕掛けが施されたメタフィクションであるため、作品を効果的に分析するために、あらかじめ一通り内容を知ったうえで、小説を読んでいます。翻訳でも映画版でもよいので、授業の第2回目までに鑑賞しておいてください。初回のガイダンスのときに、DVDの貸し出しもしますので、希望者は遠慮なく言ってください。AmazonのPrime Videoでも映画を観ることができます。

### **言語文化形成論A 中村 綾乃**（人文学研究科・豊中）時間割コード 452023

【授業サブタイトル】ヨーロッパ近現代史を読み解く

【授業の目的と概要】この授業の目的は、テキストの精読を通じて、ネーションと「人種」、植民地主義を基軸に据え、ヨーロッパ近現代史を読み解くこととする。近代国家は、国籍という制度によって「他者」を規定し、排除と内包の論理によってネーションを形成してきた。「ドイツ人」や「フランス人」、ヨーロッパ市民というアイデンティティはどのように形成されたのか、グローバル化と国民国家、植民地、人種主義、世界大戦、ナチズムの台頭に重点を置き、考察していく。議論の糸口として、映画を用いる。

### **ジェンダー論A 北井 聡子**（人文学研究科・豊中）時間割コード 452011

【授業サブタイトル】メロドラマとジェンダー

【授業の目的と概要】メロドラマは、長らくお涙頂戴、単純な善悪の二項対立、ご都合主義のプロットなどで構成される陳腐な物語とみなされてきましたが、ピーター・ブルックスの『メロドラマ的想像力』（1976）の発表をきっかけとして、悲劇と喜劇に匹敵する表現形式として、再評価がはじまりました。本書は、バルザックなど19世紀のメロドラマをとりあげ、それらに特有の「過剰」な表現とは、階級や家父長的秩序によって抑圧された人間の内的葛藤が表出されたものとの認識を提起したものです。その後のメロドラマ研究は、ハリウッドの映画研究の分野で飛躍的に発展しましたが、特にローラ・マルヴィ、アン・カプランなどフェミニストの映画研究者の貢献は、大きなものであったと言えます。また注目したいのは、彼女たちが繰り広げた論争の中で、洗練されたフェミニズム映画批評が構築させていったことです。

本セミナーの前半は、ブルックスの『メロドラマ的想像力』（抜粋）とメロドラマ映画研究の古典であるトマス・エルセサー「響きと怒りの物語—ファミリー・メロドラマへの所見」を全員で精読した後に、後半は、メロドラマ研究に関する論考の中でも、特にフェミニスト達によるものを取り上げることになります。

### **ジェンダー論A 鈴木 啓峻**（人文学研究科・豊中）時間割コード 452133

【授業サブタイトル】 ジョージ・モッセ『ナショナリズムとセクシュアリティ』を通してセクシュアリティ表象の両義性について考える

【授業の目的と概要】 ジョージ・モッセ『ナショナリズムとセクシュアリティ』の精読を通じて、19世紀からナチズムにかけてのドイツ社会を中心にセクシュアリティの表象の両義性について考察する。社会における規範の意識は、セクシュアリティの内で線引きを行い、「男性性／女性性」「正常／異常」など二元的なカテゴリーを生み出してきた。また、このような規範意識は、歴史的にはナショナリズムと手を取り合って、「アウトサイダー」を抑圧する全体主義的国家システムへと繋がる側面をも持った。しかしながら、モッセが仔細に観察した通り、現実にはメディアの中で生み出されるセクシュアリティの表象には、このような明確な二元的カテゴリーに回収されない両義性・曖昧性がつきまとい、その曖昧性が権力闘争の文脈で巧妙に利用される局面も存在した。本演習では以上の点に留意しつつ、ドイツの歴史的状況を一つのケーススタディとして、セクシュアリティ表象を多面的に解釈する力を養うことを目的とする。

#### **表象文化論A 木原 善彦**（人文学研究科・豊中）時間割コード 452025

【授業サブタイトル】 現代英語圏小説精読(1)

【授業の目的と概要】 現代の英語圏小説を読み、その問題意識のありかを探る

#### **表象文化論A 林 千宏**（人文学研究科・豊中）時間割コード 452031

【授業サブタイトル】 芸術作品とその媒体との関係

【授業の目的と概要】 芸術作品（文学、絵画、彫刻、音楽、映画など）とその媒体（メディア）の関係を受講生とともに読解・分析する。様々な論考を参照しつつ、それぞれの媒体に特有の表現方法を考察し、それぞれの媒体に好んで取り上げられる主題やモチーフを分析する。さらに、芸術作品と媒体の関係から見られる文化的背景を明らかにしていくことを目的とする。対象となる芸術作品の時代、国にはこだわらないが、教員の専門分野である中世・ルネサンス期のフランスの書物、絵画や音楽を一つの参照項としてまず考察する予定である。

#### **表象文化論A 山本 佳樹**（人文学研究科・豊中）時間割コード 452029

【授業サブタイトル】 映画分析演習—イングマール・ベルイマンの映画世界

【授業の目的と概要】 映画を分析する方法を具体的な作品を通して学ぶ。まず、ルイス・ジアネッティ『映画技法のリテラシーI—映像の法則』（フィルムアート社、2003）などの内容を解説し、映画分析の諸観点について整理する。その後、スウェーデンが生んだ映画界の巨匠イングマール・ベルイマン監督の代表作（『第七の封印』1957、『仮面 ペルソナ』1966など）をショット分析する練習をする。そのうえで作品の主題に迫ることができるようにする。

### **翻訳研究A 村上スミス・アンドリュー**（人文学研究科・豊中）時間割コード 452041

【授業サブタイトル】和英・英和翻訳演習

【授業の目的と概要】翻訳研究A・Bは、翻訳を理論と実践の両側面から見る授業である。

「和英・英和翻訳演習」（翻訳研究A）では、毎週 英和・和英翻訳の課題を一人または受講者同士の共同作業で訳し、授業（またはCLEの掲示板で）課題についてディスカッションすることにより翻訳実践を体験してもらう。

### **翻訳研究A 渡辺 貴規子**（人文学研究科・豊中）時間割コード 452043

【授業サブタイトル】近代日本の翻訳児童文学—翻訳作品と関連資料の読解

【授業の目的と概要】近代以降多数行われた欧米の児童文学の翻訳は、日本の児童観・教育観に大きな影響を与えた。同時に、それらの作品の中には日本の翻訳史全体から見ても重要な作品も存在する。本演習では、近代の代表的な翻訳児童文学作品の読解を通して、翻訳と教育の関係を考察するとともに、日本における翻訳の歴史の一端を把握し、翻訳と日本語・日本文化との関係についても考察する。

近代日本の代表的な翻訳児童文学作品の一部について、翻訳論・関連資料の読解と、原文と翻訳文の比較検討とを行う。なお、原文と翻訳文との比較検討を行う際には、原典が英語である作品か、英語訳を介し重訳された作品を扱う。

授業では、各テーマごとに担当者を決め、当たった受講者は、当該回の授業までに、翻訳作品の特徴について説明・コメントできるように発表の準備を行っていただきます。

担当者として当たっていない受講者も、配布される授業資料を必ず読んでおくようにしてください。

※なお、下記の授業計画の各回の内容は予定ですので、授業の進度に応じて各テーマに割く授業の回数、テーマとする作品が変更となる場合もあります。その際は授業の中で指示します。

### **翻訳研究A 佐高 春音**（人文学研究科・豊中）時間割コード 452039

【授業サブタイトル】『水滸伝』を読む

【授業の目的と概要】中国明代の白話(口語体)小説『水滸伝』の原文を精読する。

さらに、日本で刊行された翻訳・翻案と原作との比較考察を行う。

授業の主な流れは以下の通りです。

- ①『水滸伝』原文の精読
- ②明清時代に刊行された他版本における同箇所との比較考察
- ③日本で刊行された翻訳・翻案における同箇所との比較考察

エピソードを1つ選定し、範囲を区切り、①②③の作業を繰り返し行います。

原文精読の際には、大体の意味を把握できるだけでなく、テキスト内の語句や表現を漏れなく説明できる必要があります。毎回の予習として入念な辞書調べが必須です。(推奨する辞

書については授業内で紹介します)

また、比較考察の際には、受講者全員の活発な発言と議論を求めます。

**言語文化比較交流論A 津田 保夫** (人文学研究科・豊中) 時間割コード 452033

【授業サブタイトル】村上春樹の中期小説 (1)

【授業の目的と概要】文学テキストや文化的テキストを学問的方法に基づいて分析し、文化的背景から比較考察できるようになる。

**言語文化比較交流論A 田中 智行** (人文学研究科・豊中) 時間割コード 452035

【授業サブタイトル】『金瓶梅詞話』講読

【授業の目的と概要】明代の白話長篇小説『金瓶梅』を講読する。各種の注釈や英訳をも合わせ読みつつ、白話文の正確な読解能力を身に着けるとともに、白話小説の翻訳のありかたについて考察する。

**アジア言語社会構造論 I A 今岡 良子** (人文学研究科・箕面) 時間割コード 454239

【授業サブタイトル】家畜の恵みから文化を考える

【授業の目的と概要】日本には家畜と共に育んだ文化の層が薄いですが、家畜化が起こったと考えられている中東、欧州、アフリカ、中央アジア、アジアの国々、南北アメリカ、オセアニアには、家畜と育んだ文化がその地域の歴史や文化を考える上で重要な役割を果たしています。

この授業では、今岡良子がモンゴルの遊牧文化の中の家畜の恵に関する講義をします。受講者は、自分の専攻地域について関連することを調べて、情報交換します。

また、修士論文の中間報告も行います。

**アジア言語社会動態論 II A 深尾 葉子** (人文学研究科・箕面) 時間割コード 454265

【授業サブタイトル】中国社会の移動と秩序

【授業の目的と概要】中国およびその周辺の中国系社会、華人社会の移動と秩序化についてのテーマを扱う。中国系住民は世界各地に広がっているが、実はそれは中国における国内移動とひとつながりに理解できる側面を持つ。中国社会に内在する流動性と硬直性のダイナミクスを歴史研究から説き起こし、市場と秩序、移動と組織化、暴力と正義、動乱と自治、といったトピックに合わせて議論し、現代中国社会をめぐる諸事情を理解する手がかりを得る。

**アジア言語文化資源論 II A 林 初梅** (人文学研究科・箕面) 時間割コード 454221

【授業サブタイトル】日本における台湾研究の視座

【授業の目的と概要】日本統治時期 (1895-1945) の台湾では、台湾総督府の役人、日本人



の教育者、学者たちによって、様々な文献収集と実地調査が行われていた。これらの活動が、戦後の台湾に大きな影響を与えているが、その内実も議論の対象となっている。台湾における日本統治期は、一体どのような時代だったのか、本講義は戦前と戦後の連続性を検討し、新たな台湾認識への視座を提供したいと考える。

#### **ヨーロッパ言語社会構造論ⅠA 藤原 克美**（人文学研究科・箕面）時間割コード 454253

【授業サブタイトル】ロシアの政治・経済・社会の諸問題

【授業の目的と概要】他国との比較や、様々なディシプリンに則して、ロシアの政治・経済・社会の特徴を明らかにすることをめざす。授業は共通の題材を用いた、いわゆる輪読を中心とするが、グループ作業等も行う予定である。毎回、最初の 10-15 分程度を利用して、最新のニュースを分析する（新聞記事報告）。

#### **広域言語文化論ⅣA 藤原 克美**（人文学研究科・箕面）時間割コード 454018

【授業サブタイトル】ソビエト史再考

【授業の目的と概要】この授業では、ソビエト史の最新の研究成果を利用して、全体主義的政治・経済体制の従来のイメージの補正・修正を行う。テキスト出版以降にロシアで公開された資料についても可能な限り紹介する。受講者は関心のあるテーマを選んで研究を進め、授業の最後にレポートを執筆する。また、どのような資料が、どこに保管され、どのように分類されているかの基本的な知識を教授し、必要な資料にアクセスするための方法についても学ぶ。

#### **広域言語文化論ⅢA 中村 未樹**（人文学研究科・箕面）時間割コード 454016

【授業サブタイトル】シェイクスピア歴史劇の研究

【授業の目的と概要】この授業ではシェイクスピアの作品を読んでその英語を理解するとともに、劇の分析の手法を学ぶことを目標とします。また、音声や映像資料を活用しながら作品の朗読練習も行います。さらに、世界各国におけるシェイクスピア作品のアダプテーションを調査してもらうことで、シェイクスピア作品の現代的意義について確認できるよう取り組みます。

#### **イギリス言語文化表象論ⅠA 畑田 美緒**（人文学研究科・箕面）時間割コード 454209

【授業サブタイトル】19世紀のイギリス小説と文化

【授業の目的と概要】チャールズ・ディケンズの小説 *Great Expectations* を題材とし、その作品の内的世界のみならず、成立の背景にある作家、時代、社会問題などを総合的に分析、考察することでイギリス文化のさまざまな側面にアプローチすることを目的とする。

#### **アメリカ言語文化表象論ⅠA 近藤 佑樹**（人文学研究科・箕面）時間割コード 454211

【授業サブタイトル】 アメリカ言語文化表象論 I A

【授業の目的と概要】本授業では、英文テキストの精読を通して、現代アメリカ社会の諸相をより深く理解するだけでなく、大学院での自分の研究をより一層深めることを目的としています。前期の授業では、ポール・オースターの *Leviathan* (1992) を取り扱い、20 世紀アメリカにおいて、アメリカ人による暴力が発露する様をマクロかつミクロな視点で読み解きます。担当者による発表を中心に授業を進めます。

**アメリカ言語文化表象論 II A 岡本 太助** (人文学研究科・箕面) 時間割コード 454213

【授業サブタイトル】 アフリカ系アメリカ演劇研究をめぐる論点①

【授業の目的と概要】この科目では、アフリカ系アメリカ人作家による劇作と作品上演およびその受容をめぐる研究において、必ず押さえておくべき論点を整理し直し、今後の研究において探究すべきテーマは何かについて考えます。教科書は指定せず、受講者と相談のうえで講読資料を選定します。2 本ないし 3 本の資料を読んだ段階で、そこで得た知見を具体的な作品分析に応用する練習を行います。

授業形式は演習とし、毎回担当者を決めて、資料の内容の要約、ディスカッション・トピックの提示、英語表現と内容のポイント解説をしていただきます。また発表者以外の受講者も、事前に資料を読み、質問やコメントをオンラインで提出することが求められます。発表や提出されたコメントを参照しながら、授業の後半で講師による解説が行われます。

期末には、授業の内容を踏まえ、自分なりに設定したテーマに即して英文のアメリカ演劇研究レポートを作成、提出していただきます。

**イギリス言語社会動態論 I A 藤山 一樹** (人文学研究科・箕面) 時間割コード 454298

【授業サブタイトル】 イギリス近現代史特別研究 1 一戦間期イギリスと国際連盟

【授業の目的と概要】本授業では戦間期イギリス外交を英語文献の輪読により多面的に検討する。

戦間期イギリスの対外関与を仔細に検討しながら、第一次世界大戦という未曾有の惨禍を経験した同国の課題、ならびに当時のイギリスの政策オプションを制約した要因への理解を深める。あわせて、外交・政治・社会を理解するための視座および効果的なプレゼンテーションの技法を身に付ける。

受講生はテキスト原文を精読するとともに、時代背景や登場人物について分担調査し、授業に臨む。毎回、報告者がレジюмеを基に担当範囲の要約・論点を示した後、履修者全員でディスカッションを行う。学期末には、ディスカッションその他で得た知見を手がかりに、本授業のテーマを独自の視点で分析したリサーチ・ペーパー (英語・10~15 枚) を提出する。

**世界文学・文化論 (リレー講義) 北岡 志織** (人文学研究科・箕面) 時間割コード 454401

【授業サブタイトル】世界文学・文化論

【授業の目的と概要】本授業はもともと大学院言語文化研究科言語社会専攻および日本語日本文化専攻の大学院生のために開講した「世界文学研究」と「ポストモダン文化論」を統合した科目である。専門分化が顕著な昨今の研究に対し、さまざまな地域の文学と文化に関する諸問題をリレー方式で講義し、院生諸君の専門とは異なる各国の文学事情や研究方法に触れ、専門分野に取り組む視野を広げることを目的とする。外国語学部と同様の趣旨の授業がないこともあり、外国語学部生の視野を広げてもらうことを目的として、平成28年度より、この授業を外国語学部生にも共通科目として受講できるようにした。

### <集中講義>

**日本の地域と民俗講義 越智 郁乃, 北村 毅** (人文学研究科・豊中) 時間割コード 45E104

【授業サブタイトル】琉球/沖縄の民俗文化

【授業の目的と概要】本講義では、琉球/沖縄における民俗文化の生成について検討する。これまで沖縄社会は本土日本と比較して特異に祖先信仰が発達した地域として、文化人類学的、あるいは民俗学的な関心を集めてきた。系譜認識や親族組織の特色と結びついた葬墓制、祖先祭祀などを対象にして、沖縄の人々の世界観、日本を含む東アジアとの比較、あるいは沖縄文化の源流を明らかにしようとする研究が数多く存在する。それに対して本講義では、沖縄の人々の「生」の文脈、すなわち、植民地的状況や戦争、米軍支配や復帰、本土日本経済による取り込み、そして観光など、絶えざる「日本」との交渉を通じて、どのように「琉球/沖縄の民俗文化」が生成変化しているのか、という観点から、これまでの沖縄研究を再検討し、今後の研究の展望を開く。この営為は同時に「日本」で文化人類学/民俗学を研究する者の立ち位置を問い直すことにも通じるだろう。

### <秋冬学期科目>

**超領域文化論B 平山 晃司** (人文学研究科・豊中) 時間割コード 452010

【授業サブタイトル】ギリシア人とト占(2)

【授業の目的と概要】「異質の文化を研究する究極の目的は、自分の文化の体系がどのように機能するかについて、知見を広めることにある」(E. T. Hall)。この授業は、古典古代の文化のありようを学ぶことにより、自国の文化を批判的に見つめ直し、より深く理解するためのよすがを手に入れることを目的とする。

**超領域文化論B ガデミ アミン** (人文学研究科・豊中) 時間割コード 452132

【授業サブタイトル】東アジアの文化史

【授業の目的と概要】東アジアの歴史を検討する英語での文献を精読することにより、英

語圏の文化史学における重要な議論を理解し、それについて批判的に考え、その議論における様々な視点を評価する。今学期は主に、中国史および日本史における「帝国主義」というテーマを取り上げる。

#### **グローバリゼーション論B 小杉 世** (人文学研究科・豊中) 時間割コード 452014

【授業サブタイトル】 アジア太平洋の環境文学 (Indra Sinha: *Animal's People*)

【授業の目的と概要】本演習は植民地主義・帝国主義とグローバリゼーションとの関係について、ポストコロニアル理論や環境人文学、その他の文化理論に基づきながら考察する。太平洋の核軍事化による先住民社会の変容、移民・難民の問題、気候変動やグローバル企業の活動が現地社会にもたらす環境問題、グローバル資本主義と生政治の問題など、現代世界の抱える様々な課題について、文学テキストや表象の分析、フィールド調査のデータなどをもとに考察する。現代社会の課題を考究するにあたって必要となるのは、多様な視点であり、「他者」の目から世界を見る想像力である。受講生は自らの専門分野と方法論に基づいて、授業に自らの視点や関連考察素材を持ち込むことが推奨される。

今年度の秋冬学期は、インドのボパール化学工場事故を想起させる架空の町を舞台とする Indra Sinha の小説 *Animal's People* (2017) をとりあげ、冷戦期の太平洋核実験の歴史や石牟礼道子などの日本の水俣文学との関わりにおいて分析する。

#### **グローバリゼーション論B 西村 謙一** (人文学研究科・豊中) 時間割コード 452016

【授業サブタイトル】 グローバリゼーションの中の市民社会

【授業の目的と概要】本演習はグローバリゼーションのもとにおける国家や国民の実態について、多文化主義論やエスニシティ論等を援用しつつ考察する。従来、近代国家は、単一の国民で形成されているとの擬制のもとにあったが、それは必ずしも成立しないと指摘されるようになって久しい。特に、国境を越えた人々の流れが加速化している現在は、国民の実態は複雑さを増している。グローバリゼーション論Bではグローバリゼーション論Aで学んだ理論的枠組も援用しつつ、具体的な事例を取り上げて一国内における社会的包摂／排除についての動的な理解を目指す。

#### **言語文化共生論B 里内 克巳** (人文学研究科・豊中) 時間割コード 452018

【授業サブタイトル】 文学から考える人種とジェンダー (2)

【授業の目的と概要】この授業では、アフリカ系アメリカ人作家 Charles W. Chesnutt の最後の作品となった *The Quarry* (完成は 1928 年、出版は 1999 年) という小説を読む。明るい肌を持ったハンサムな男性が、さまざまな女性たちと関わりをもちつつ、「黒人」の指導者としての道を模索するという筋立ての小説である。20 世紀前半のアメリカにおける社会状況を知る上でも興味深いテキストである。本授業では、この小説を丹念に読み、議論することによって、作品が投げかける人種やレイシズム、そしてジェンダーやセクシュアリティといっ



た問題系をめぐる問いかけに対して考えをめぐらせたい。また小説の読解と併行して、日本人研究者による人種主義に関する入門書も参照し、広い視野から理解を深めていきたい。Nella Larsen の小説 *Passing* (1929) は、Alice Walker や Toni Morrison など、後続するアフリカ系アメリカ文学の書き手たち（特に女性作家）に大きな影響を与えた作品である。本授業では、この小説を丹念に読み、議論することによって、作品が投げかける人種やレイシズム、そしてジェンダーやセクシュアリティといった問題系をめぐる問いかけに対して考えをめぐらせたい。また小説の読解と併行して、文化人類学者 Ruth Benedict が著わした *Race and Racism* (1940) の日本語訳も参照し、人種という捉えがたい概念についての理解を深めたい。

### 言語文化共生論B 霜鳥 慶邦（人文学研究科・豊中）時間割コード 452020

【授業サブタイトル】現代マレーシア英語文学が描く日本のアジア占領の記憶：Tan Twan Eng, *The Garden of Evening Mists* (2011) を読む

【授業の目的と概要】現代マレーシア文学界を代表する作家 Tan Twan Eng の英語小説 *The Garden of Evening Mists* (2011) を読みます。

Tan Twan Eng は、マレーシアのペナン島に生まれ、ロンドン大学で法律を学び、クアラルンプールで弁護士となり、その後、小説家となり、デビューと同時に高い評価を受け、現在にいたります。

*The Garden of Evening Mists* は、マン・ブッカー賞最終候補、マン・アジア文学賞受賞、ウォルター・スコット賞受賞、国際 IMPAC ダブリン文学賞最終候補など、高い評価を受け、17ヶ国語に翻訳されています。阿部寛出演により映画化もされています。

物語は、英国統治時代のマラヤ連邦（現マレーシア）を舞台に、天皇の庭師だったアリトモと、日本軍の強制収容所のトラウマを抱えるユンリンの関係が、1980年代の時点から回想されます。日本軍のマレー半島侵攻、戦後マラヤの「非常事態」といった歴史を背景に、戦争によって傷つく人々の記憶が、きわめて美しく読みやすい英語の文章によって綴られます。

まずは、物語世界を楽しみ、じっくりと味わいましょう。そして、作品についての理解を深めるだけでなく、文学テキストを、単語・内容・文体・構造・修辞・背景など、あらゆるレベルにこだわって読むという行為それ自体の訓練も意識して進め、文学テキストを分析的・批評的に読む技術を身につけることを目指します。

授業の形式は、基本的に、担当者による発表と全体での議論によって進める予定です。気軽に、積極的に、議論に参加してください。

### 言語文化形成論B 中村 綾乃（人文学研究科・豊中）時間割コード 452024

【授業サブタイトル】近現代史を読み解く

【授業の目的と概要】この授業では、テキストの精読を通じて、ネーションと「人種」、植民地主義を基軸に据え、歴史を読み解いていく。近代国家は、国籍という制度によって「他

者」を規定し、排除と内包の論理によってネーションを形成してきた。「ドイツ人」や「フランス人」、ヨーロッパ市民というアイデンティティはどのように形成されたのか、グローバル化と国民国家、植民地、人種主義、世界大戦、ファシズム体制などをキーワードにして、考察していく。

#### **ジェンダー論B 北井 聡子**（人文学研究科・豊中）時間割コード 452012

【授業サブタイトル】ジェンダー美術論

【授業の目的と概要】美術におけるジェンダーの問題を考察するセミナーです。前半は、グリゼリダ・ポロックやリンダ・ノックリンなどの基本文献を読み、後半では受講者が選んだ美術作品を分析します。眼差しの中に潜む政治性や、まなざしによってジェンダー化される身体などの問題を具体的な作品を通じて考えてみましょう。

#### **ジェンダー論B 鈴木 啓峻**（人文学研究科・豊中）時間割コード 452134

【授業サブタイトル】C. G. ユング『自我と無意識の関係』を読む

【授業の目的と概要】ユングの思想に概括的に触れることができる中期の著作『自我と無意識の関係』（1928）をジェンダー論的、アイデンティティ論的観点から読解する。フロイトが「無意識」の内容を主として性的なエネルギーと想定したのに対し、ユングはそれを、太古から人類に共有された「集合的」なものであり、かつ、特定の局面で一定の法則性を持って「意識」を襲う「元型」的なものとして捉えた。このような「無意識」の理解は、一方でジェンダーを含めた様々なアイデンティティを固定化する見方につながるのではないかという批判を受けてきた。しかしながら他方で、男性の心の中の女性性を意味する「アニマ」、女性の心の中の男性性を意味する「アニムス」といった思想に見られるように、ユングは、「自己」の中に「他」なる要素を認め、その矛盾の統合を自らの思想の中心的なテーゼとしていることも事実である。本演習では、以上のようなユングの思想を、現代的な観点からいかに解釈しうるかを議論する。

#### **表象文化論B 木原 善彦**（人文学研究科・豊中）時間割コード 452026

【授業サブタイトル】現代英語圏小説精読(2)

【授業の目的と概要】現代の英語圏小説を読み、その問題意識のありかを探る

#### **表象文化論B 林 千宏**（人文学研究科・豊中）時間割コード 452032

【授業サブタイトル】芸術作品とその媒体との関係

【授業の目的と概要】前期の授業に引き続き、芸術作品（文学、絵画、彫刻、音楽、映画など）とその媒体（メディア）の関係を受講生とともに読解・分析する。前期に学んだそれぞれの媒体特有の表現方法やモチーフについて、受講生の一人一人が具体的に作品を取り上げて分析・発表を行う。対象とする芸術作品の時代、国にはこだわらない（現代の漫画、ア

アニメ、動画などを取り上げてよい)。そのうえで受講生の全員がそれぞれの取り上げた作品、そして発表についてディスカッションを行う。併せて芸術作品と媒体に関する論考も読み、その内容を検討する。

#### **表象文化論B 山本 佳樹** (人文学研究科・豊中) 時間割コード 452030

【授業サブタイトル】映画分析演習—市川崑の映画世界

【授業の目的と概要】映画を分析する方法を具体的な作品を通して学ぶ。まず、ルイス・ジアネッティ『映画技法のリテラシーI—映像の法則』(フィルムアート社、2003)などの内容を解説し、映画分析の諸観点について整理する。その後、「崑タッチ」と呼ばれる独自のスタイルで多彩なジャンルの映画を手がけた市川崑監督の代表作をショット分析する練習をする。そのうえで作品の主題に迫ることができるようにする。

#### **翻訳研究B 村上スミス・アンドリュー** (人文学研究科・豊中) 時間割コード 452042

【授業サブタイトル】翻訳研究概論

【授業の目的と概要】翻訳研究A・Bは、翻訳を理論と実践の両側面から見る授業である。翻訳研究Bでは、様々な翻訳理論を読み翻訳の諸問題について検討することにより翻訳研究を概観する。

#### **翻訳研究B 渡辺 貴規子** (人文学研究科・豊中) 時間割コード 452044

【授業サブタイトル】欧米児童文学作品の日本における受容—翻訳・再話・アダプテーション

【授業の目的と概要】本演習では、欧米の児童文学作品の日本における翻訳、翻案、再話、および日本で公開された映画、アニメーションなどのアダプテーションを取り上げ、原作の文芸表象の変容について受講者とともに考察する。また、その変容に関し、文化社会史的背景、児童観の相違や変容、翻訳者や製作者の思想や作品解釈についても検討する。

最初の数回は、比較児童文学者、ジャック・ザイプスの論文を受講者とともに講読し、本演習における基本的な視座を確認する。

その後、具体的な作品の検討に移る。テーマとする各作品には2～3回の授業を当て、毎回の授業において、それらの作品の種類異なる翻訳・アダプテーションを取り上げる。

授業では、各テーマごとに担当を決め、当たった受講者は、当該回の授業までに、翻訳作品の特徴について説明・コメントできるように発表の準備を行っていただきます。担当者として当たっていない受講者も、配布される授業資料を必ず読んでおくようにしてください。

#### **翻訳研究B 佐高 春音** (人文学研究科・豊中) 時間割コード 452040

【授業サブタイトル】『水滸伝』を読む

【授業の目的と概要】前期に引き続き、中国明代の白話(口語体)小説『水滸伝』の原文を精読する。さらに、日本で刊行された翻訳・翻案と原作との比較考察を行う。

授業の主な流れは以下の通りです。

- ①『水滸伝』原文の精読
- ②明清時代に刊行された他版本における同箇所との比較考察
- ③日本で刊行された翻訳・翻案における同箇所との比較考察

エピソードを1つ選定し、範囲を区切り、①②③の作業を繰り返し行います。

原文精読の際には、大体の意味を把握できるだけでなく、テキスト内の語句や表現を漏れなく説明できる必要があります。毎回の予習として入念な辞書調べが必須です。(推奨する辞書については授業内で紹介します)

また、比較考察の際には、受講者全員の活発な発言と議論を求めます。

#### 言語文化比較交流論B 津田 保夫 (人文学研究科・豊中) 時間割コード 452034

【授業サブタイトル】村上春樹の中期小説(2)

【授業の目的と概要】村上春樹の小説を材料として、方法論的意識に基づいて文学テキストを分析し、学問的な議論を行うことによって、文化分析および比較考察に必要な技術や能力を習得する。

#### 言語文化比較交流論B 田中 智行 (人文学研究科・豊中) 時間割コード 452036

【授業サブタイトル】『金瓶梅詞話』講読

【授業の目的と概要】前期にひきつづき明代の白話長篇小説『金瓶梅』を講読する。各種の注釈や英訳をも合わせ読みつつ、白話文の正確な読解能力を身に着けるとともに、白話小説の翻訳のありかたについて考察する。

#### アジア言語社会構造論I B 今岡 良子 (人文学研究科・箕面) 時間割コード 454240

【授業サブタイトル】東アジアと中央アジアにおける女性解放とその背景を考える

【授業の目的と概要】今岡良子は、モンゴルの女性解放の歴史を研究している。モンゴル人民共和国が設立された1924年の時点で、男女平等が新しい社会主義建設の柱とし、読み書きから始めて、女子の就学率や就職率を高め、モンゴル国のジェンダーギャップ指数は日本のそれと比べると高い。しかし、北欧と比べると随分低い。東アジアや中央アジアの国々も、そう大きく変わらない。

授業の第一の目的は、モンゴルの女性解放の歴史を知ること。

第二の目的は、自分の専攻地域のジェンダーギャップの問題を報告し、東アジアや中央アジアのさまざまな文化や歴史の背景を持った女性解放を映画を共有して考えること。

第三の目的は、修士論文の中間発表をすること。



**アジア言語社会動態論ⅡB 深尾 葉子**（人文学研究科・箕面）時間割コード 454266

【授業サブタイトル】 中国文化と社会の歴史的背景

【授業の目的と概要】 移動、移住を常とする中国社会は、歴史的にはどのような発展を辿ってきたのか。世界史、なかでもグローバル・ヒストリーと呼ばれる領域においては、世界の各地の発展モデルを比較史的に考察し、前近代から資本主義的発展への道をその相互作用において検証してきた。後期の授業では近代という枠を超えて、中国がどのように理解されるのかをつかむべく議論を行いたい。

**アジア言語文化資源論ⅡB 林 初梅**（人文学研究科・箕面）時間割コード 454222

【授業サブタイトル】 日本における台湾研究の視座

【授業の目的と概要】 日本統治時期（1895-1945）の台湾では、台湾総督府の役人、日本人の教育者、学者たちによって、様々な文献収集と実地調査が行われていた。これらの活動が、戦後の台湾に大きな影響を与えているが、その内実も議論の対象となっている。台湾における日本統治期は、一体どのような時代だったのか、本講義は戦前と戦後の連続性を検討し、新たな台湾認識への視座を提供したいと考える。

**ヨーロッパ言語社会構造論ⅠB 藤原 克美**（人文学研究科・箕面）時間割コード 454254

【授業サブタイトル】 ロシアの政治・経済・社会の諸問題

【授業の目的と概要】 他国との比較や、様々なディシプリンに則して、ロシアの政治・経済・社会の特徴を明らかにすることをめざす。授業は各自の研究テーマの発表と、グループでのプレゼンテーションの準備を中心とする。毎回、最初の10-15分程度を利用して、最新のニュースを分析する（新聞記事報告）。

**広域言語文化論ⅣB 藤原 克美**（人文学研究科・箕面）時間割コード 454019

【授業サブタイトル】 ソビエト史再考

【授業の目的と概要】 この授業では、ソビエト史の最新の研究成果を利用して、全体主義的政治・経済体制の従来イメージの補正・修正を行う。テキスト出版以降にロシアで公開された資料についても可能な限り紹介する。受講者は関心のあるテーマを選んで研究を進め、授業の最後にレポートを執筆する。また、どのような資料が、どこに保管され、どのように分類されているかの基本的な知識を教授し、必要な資料にアクセスするための方法についても学ぶ。

**広域言語文化論ⅢB 中村 未樹**（人文学研究科・箕面）時間割コード 454017

【授業サブタイトル】 シェイクスピア歴史劇の研究

【授業の目的と概要】 この授業ではシェイクスピアの作品を読んでその英語を理解するとともに、劇の分析の手法を学ぶことを目標とします。また、音声や映像資料を活用しながら

作品の朗読練習も行います。さらに、世界各国におけるシェイクスピア作品のアダプテーションを調査してもらうことで、シェイクスピア作品の現代的意義について確認できるよう取り組みます。

**イギリス言語文化表象論 I B 畑田 美緒** (人文学研究科・箕面) 時間割コード 454210

【授業サブタイトル】19世紀のイギリス小説と文化

【授業の目的と概要】ジョージ・エリオットの小説 *Silas Marner* を題材とし、その作品の内面的世界のみならず、成立の背景にある作家、時代、社会問題などを総合的に分析、考察することでイギリス文化のさまざまな側面にアプローチすることを目的とする。

**アメリカ言語文化表象論 I B 近藤 佑樹** (人文学研究科・箕面) 時間割コード 454212

【授業サブタイトル】アメリカ言語文化表象論 I B

【授業の目的と概要】本授業では、英文テキストの精読を通して、現代アメリカ社会の諸相をより深く理解するだけでなく、大学院での自分の研究をより一層深めることを目的としています。前期の授業では、フィリップ・ロスの *American Pastoral* (1997) を取り扱い、20世紀アメリカにおいて、内部からテロが起り、理想の家族が崩壊していく様をマクロかつミクロな視点で読み解きます。担当者による発表を中心に授業を進めます。

**アメリカ言語文化表象論 II B 岡本 太助** (人文学研究科・箕面) 時間割コード 454214

【授業サブタイトル】アフリカ系アメリカ演劇研究をめぐる論点②

【授業の目的と概要】前期に続いて、この科目では、アフリカ系アメリカ人作家による劇作と作品上演およびその受容をめぐる研究において、必ず押さえておくべき論点を整理し直し、今後の研究において探究すべきテーマは何かについて考えます。後期は特に女性の表象や女性作家による劇作にフォーカスします。教科書は指定せず、受講者と相談のうえで講読資料を選定します。2本ないし3本の資料を読んだ段階で、そこで得た知見を具体的な作品分析に応用する練習を行います。

授業形式は演習とし、毎回担当者を決めて、資料の内容の要約、ディスカッション・トピックの提示、英語表現と内容のポイント解説をしていただきます。また発表者以外の受講者も、事前に資料を読み、質問やコメントをオンラインで提出することが求められます。発表や提出されたコメントを参照しながら、授業の後半で講師による解説が行われます。

期末には、授業の内容を踏まえ、自分なりに設定したテーマに即して英文のアメリカ演劇研究レポートを作成、提出していただきます。

**現代英米政治外交史特殊研究 藤山一樹** (人文学研究科・箕面) 時間割コード 454402

【授業サブタイトル】20世紀のイギリス帝国

【授業の目的と概要】本授業では、イギリス帝国が1910年代から1960年代にかけて、世界

大戦・冷戦・脱植民地化を経験しつつ大きく変質した過程および帰結について、英語文献の輪読を通じ多面的に検討する。あわせて、政治・社会を理解するための一般的視座および効果的なプレゼンテーションの技法を身に付ける。

### **世界の言語事情（リレー講義） 岡本 真理**（人文学研究科・箕面）時間割コード 454412

【授業サブタイトル】世界の社会言語学的状況

【授業の目的と概要】日本語を除く 24 の専攻語が話されている国や地域の言語事情について、それぞれの国や地域を研究対象としている研究者がリレー形式で講義を行う。具体的には、対象となる国や地域における言語の分布、言語政策、言語の社会的階層、言語使用、言語維持と言語取替えの現状、教育言語といった言語状況を、社会的・歴史的背景とともに概説する。世界の言語事情は実にさまざまである。たとえば世界には、公用語の選択と普及が深刻な問題になっている国もあれば、わざわざ公用語を定めるまでもない（ほど支配的な言語が存在している）という国も少なくない。フランスやスペインのように長い言語運動の歴史を持つところもあれば、アフリカ諸国のように言語運動の歴史をまったく持っていないところもある。また文字をめぐる問題はアジアに特徴的な議論である。普遍的価値のように言われることの多い「多言語主義」も、数言語が話されている国と 200 もの言語が話されている国とでは、その意味も現実味も異なっている。ところが一方で、まったく異なる言語状況であるにも拘らず、多くの国で英語を教育媒介にすることが同じように議論されているという現象もある。世界の社会言語学的状況を広く学ぶことを通して、受講生が、言語状況と社会背景との関係を深く理解し、個別の事象にとどまることなく、それらの言語状況・言語問題がその国に特有のものなのか、あるいは国や地域を超えるものなのか、地域的な特徴や共通する課題を見極め、現代社会が抱える言語問題と背景との関係を一般化していくことができるようになることをめざす。

### **地域文化空間論講義 井本 恭子**（人文学研究科・豊中）時間割コード 458710

【授業サブタイトル】グローバルな問題を地域から考える

【授業の目的と概要】

目的：変化に適応しながら生きる人びとの多面的な関係の接続のダイナミクスがつくりだす空間やブリコラージュのような技法が作動する「場」を捉える視座と知識を身につける。  
概要：綿密な現地調査を理論的な分析へとつなげるような研究を提示しながら、複雑性・多面性を確保していこうとする人びとの多彩な実践がつくる、求心性と開放性の動的な空間として地域を捉える方法と理論的な基盤を考える。

R 6 高度副プログラム「世界の言語文化とグローバリゼーション」提供科目

選択科目 (科目数: 59)	単位数	開講学期	曜日/時限	開講部局 (専攻)	開講キャンパス	備考
共生社会論特講I	2	夏学期	金1, 金2	人間科学研究科	吹田	
多文化共生学特講I	2	春～夏学期	水3	人間科学研究科	吹田	
多文化共生学特定演習I	2	春～夏学期	木1	人間科学研究科	吹田	
超領域文化論A	2	春～夏学期	水3	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
超領域文化論B	2	秋～冬学期	水2	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
ジェンダー論A	2	春～夏学期	火5	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
ジェンダー論B	2	秋～冬学期	木3	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
グローバリゼーション論A	2	春～夏学期	水4	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
グローバリゼーション論B	2	秋～冬学期	水4	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
グローバリゼーション論A	2	春～夏学期	水5	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
グローバリゼーション論B	2	秋～冬学期	水5	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
言語文化共生論A	2	春～夏学期	水4	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
言語文化共生論B	2	秋～冬学期	水4	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
言語文化共生論A	2	春～夏学期	金2	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
言語文化共生論B	2	秋～冬学期	金2	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
言語文化形成論A	2	春～夏学期	水3	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
言語文化形成論B	2	秋～冬学期	水3	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
表象文化論A	2	春～夏学期	木2	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
表象文化論B	2	秋～冬学期	木2	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
表象文化論A	2	春～夏学期	水2	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
表象文化論B	2	秋～冬学期	水2	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
表象文化論A	2	春～夏学期	金3	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
表象文化論B	2	秋～冬学期	水3	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
言語文化比較交流論A	2	春～夏学期	金3	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
言語文化比較交流論B	2	秋～冬学期	金3	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
言語文化比較交流論A	2	春～夏学期	水2	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
言語文化比較交流論B	2	秋～冬学期	水2	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
翻訳研究A	2	春～夏学期	火4	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
翻訳研究B	2	秋～冬学期	火4	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
翻訳研究A	2	春～夏学期	火2	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
翻訳研究B	2	秋～冬学期	火2	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
翻訳研究A	2	春～夏学期	金2	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
翻訳研究B	2	秋～冬学期	金2	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
超領域文化論A	2	春～夏学期	月4	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
超領域文化論B	2	秋～冬学期	月4	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
ジェンダー論A	2	春～夏学期	水3	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
ジェンダー論B	2	秋～冬学期	水3	人文学研究科 (言語文化学専攻)	豊中	
広域言語文化論ⅢA	2	春～夏学期	月2	人文学研究科 (外国学専攻)	箕面	
広域言語文化論ⅢB	2	秋～冬学期	月2	人文学研究科 (外国学専攻)	箕面	
広域言語文化論ⅣA	2	春～夏学期	水5	人文学研究科 (外国学専攻)	箕面	
広域言語文化論ⅣB	2	秋～冬学期	水5	人文学研究科 (外国学専攻)	箕面	
イギリス言語文化表象論ⅠA	2	春～夏学期	金1	人文学研究科 (外国学専攻)	箕面	
イギリス言語文化表象論ⅠB	2	秋～冬学期	金1	人文学研究科 (外国学専攻)	箕面	
アメリカ言語文化表象論ⅠA	2	春～夏学期	月5	人文学研究科 (外国学専攻)	箕面	
アメリカ言語文化表象論ⅠB	2	秋～冬学期	月5	人文学研究科 (外国学専攻)	箕面	
アメリカ言語文化表象論ⅡA	2	春～夏学期	水2	人文学研究科 (外国学専攻)	箕面	
アメリカ言語文化表象論ⅡB	2	秋～冬学期	水2	人文学研究科 (外国学専攻)	箕面	
アジア言語文化資源論ⅡA	2	春～夏学期	火5	人文学研究科 (外国学専攻)	箕面	
アジア言語文化資源論ⅡB	2	秋～冬学期	火5	人文学研究科 (外国学専攻)	箕面	
アジア言語社会構造論ⅠA	2	春～夏学期	月4	人文学研究科 (外国学専攻)	箕面	
アジア言語社会構造論ⅠB	2	秋～冬学期	月4	人文学研究科 (外国学専攻)	箕面	
ヨーロッパ言語社会構造論ⅠA	2	春～夏学期	水4	人文学研究科 (外国学専攻)	箕面	
ヨーロッパ言語社会構造論ⅠB	2	秋～冬学期	水4	人文学研究科 (外国学専攻)	箕面	
アジア言語社会動態論ⅡA	2	春～夏学期	月5	人文学研究科 (外国学専攻)	箕面	
アジア言語社会動態論ⅡB	2	秋～冬学期	月5	人文学研究科 (外国学専攻)	箕面	
イギリス言語社会動態論ⅠA	2	春～夏学期	水3	人文学研究科 (外国学専攻)	箕面	
現代英米政治外交史特殊研究	2	秋～冬学期	木3	人文学研究科 (外国学専攻)	箕面	
世界文学・文化論 (リレー講義)	2	春～夏学期	水4	人文学研究科 (外国学専攻)	箕面	
世界の言語事情 (リレー講義)	2	秋～冬学期	木4	人文学研究科 (外国学専攻)	箕面	
西洋近現代史講義Ⅱ-1	2	春～夏学期	月3	人文学研究科 (人文学専攻)	豊中	
地域文化空間論講義	2	秋～冬学期	金4	人文学研究科 (人文学専攻)	豊中	
イギリス文化史講義	2	春～夏学期	水4	人文学研究科 (人文学専攻)	豊中	
日本の地域と民俗講義	2	集中		人文学研究科 (日本学専攻)	豊中	

※ 同名科目が複数あるものは、担当教員と授業内容が異なります。